

# この技術で **特集**

## 「集合住宅を囲い込め！」

— ケーブルテレビ向け「集合住宅の高速通信・4K対応技術」を徹底比較 —

ケーブルテレビ事業者にとって、エリア内の集合住宅は「最後のフロンティア」と言える。集合住宅の通信設備を高速化して囲い込めば、加入者を大きく増やすことができる。競合する通信事業者も集合住宅囲い込みに必死だ。ケーブルテレビ事業者は競合事業者より先に集合住宅を高速化する必要がある。この特集では、ケーブルテレビ事業者に適した集合住宅の通信高速化技術を比較解説。さらにシステム提供企業に技術の特徴、導入事例を聞いた。(取材・文:渡辺 元・本誌編集長)

## 集合住宅の通信高速化「主要3技術」を徹底比較

「C-DOCSIS」「Home PNA 3.1 over Coax/G.hn」「G.fast」の特徴

4K/8K映像の登場、OTTによる動画配信サービスの充実、SNSの隆盛——。通信トラフィック需要が劇的な右肩上がり続ける中で、そうした傾向に対応しきれないとされてきたのが古い集合住宅だ。戸建てや新築マンションと異なりFTTHを進めるのは難しく、さりとて放置してしまうにはケーブルテレビ事業者にとってあまりにパイが大きい。そこで注目を集めているのが、集合住宅通信高速化技術。特に日本での導入に適した3つの伝送方式、「C-DOCSIS」「Home PNA 3.1 over Coax/G.hn」「G.fast」だ。2月に開催された「第19回ラボワークショップ」(日本ケーブルラボ主催。本誌5月号に速報を掲載)でも大いに注目を集めたこの3方式について、改めて現状と特長をまとめた。

(取材:渡辺 元・本誌編集長、文:高瀬徹朗・放送アナリスト)

### 3方式を分類すると

集合住宅の通信高速化に適した伝送方式とされるのは、C-DOCSIS、MoCA、HiNOC、Home PNA 3.1 over Coax/G.hn、G.fast、HD-PLCの6種。このうち、特に日本で製品・ソリューションとして提供されているのはC-DOCSIS、Home PNA 3.1 over Coax/G.hn(伊藤忠ケーブルシステムが「HCNA」の名称で提供)、G.fastの3種類だ。スペックや価格、取り扱いなどにそれぞれ違いがあるが、概ねギガビットクラスまでの通信高速化を図ることができる。

この3種の適性と仕様の特徴を分類すると、C-DOCSISは大規模集合住宅向けの同軸利用技術、Home PNA 3.1 over Coax/G.hnは中・小規模集合住宅向けの同軸利用